

関西大学独逸文学会分会報告

その他のタイトル	Bericht iiber die neu gegriindete Unterabteilung unserer Gesellschaft fur Germanistik der Kansai Universitat
著者	佐藤 裕子
雑誌名	独逸文學
巻	52
ページ	87-90
発行年	2008-03-19
URL	http://hdl.handle.net/10112/12929

[トピックス]

関西大学独逸文学会分会報告

佐藤 裕子

1. 起 案

関西大学独逸文学会は、毎年秋に総会及び研究発表会を開催しているが、2007年の企画ミーティングで、芝田先生から、学会の分会のような形でもっと広く学生が参加できる学生のための行事を企画してみてもどうかという提案がされた。それを受け、第1回ドイツ語ドイツ文学専修の学生達による分会が計画されることとなった。独文専修の学生主体の学会行事ということで、まずドイツ語ドイツ文学専修の教室会議で行事の大枠を決定した。分会の方向性は以下のとおりである。

- 時期としては秋学期、10月頃に行う。
- 内容は、独文専修のみならず一般の学生も興味を持って聴くことができる、留学などの身近なテーマに関する講演で、講演者も教員や研究者ではなく学生などに依頼する。
- 講演に加えて催しに参加者全員で楽しむことができるものを入れる。

講演者として、今回は関西大学社会学部の研究生でドイツ人の漫才研究者であるティル・ヴァインゲルトナー (Till Weingärtner) 氏と日本の高校卒業後、渡独してボン大学に入学して勉強した後、関西大学ドイツ語ドイツ文学専修に編入した馬場裕介氏に依頼することとなった。

2. 準 備

分会の準備運営のため、委員会が結成された。この準備運営委員会のメンバーが中心となって、会場ホールの予約、講演者のコーディネート、宣伝、当日のプログラムの作成、懇親会の設定と予約、当日の進行、運営を行うこととなった。準備段階では、専修の学生のみならず、

一般教養でドイツ語を履修している学生に向けても広く宣伝活動を行った。準備・運営委員会のメンバーは以下の6人である。

田村 章雄 (3回生・委員長)
三好真由佳 (3回生)
脇田 輝 (3回生)
臼井 沙織 (4回生)
飯島 萌 (4回生)
鎌田 祐樹 (4回生)

3. 関西大学独文学会分会

開 催：2007年10月18日 (木) 13時
開催場所：凜風館4階小ホール
会長挨拶 八亀徳也
総合司会 脇田 輝

第1部 講演 『ドイツ人は何に笑うか? — 笑いの研究への招待』

関西大学社会学部研究生 Till Weingärtner

司会 臼井 沙織

日本には落語や漫才などの笑いの文化があるが、ドイツ語圏でもジョークが愛され、日常生活の中で広く語られている。日本の漫才に当たるのはオーストリアのドッペルコンフェローズ (Doppelconférence) で、ここでも二人のコメディアンが会話をし、それぞれボケとツッコミの役割を受け持っている。漫才とドッペルコンフェローズの違いは、その話の導入にある。漫才の場合、「出ばやし」と呼ばれている音楽が流れて二人の漫才師が同時に登場するが、ドッペルコンフェローズの場合は、最初に一人が舞台に登場し、これから演じるドッペルコンフェローズについて観衆に説明し、さらに演目を演じている途中にも観衆にドッペルコンフェローズの本質を喚起させることを意図する発言がされる。漫才の導入には言語的な説明はないが、「出ばやし」や舞台の真ん中に配置されたスタンドマイクが、観衆にこれから舞台で漫才が行われることを

認識させる役目を担っている。

ドイツ語で冗談やジョークを Witz というが、Witz が語られる際にも „Kennst du den?“ (ねえ、これ知ってる?) などの前置きが話され、これからジョークが語られることが言葉によって予告される。日本人もジョークを語るが、それは話の流れの中でおもしろいことを言うものであり、ドイツ語圏の人間にはそれがジョークとわかりにくい。ユーモアに関して理解するためにはジョークの内容だけでなくジョークを語る習慣についても理解することが必要である。

第2部 講演 『ドイツ留学体験記』

ドイツ語ドイツ文学専修3回生 馬場裕介
司会 田村 章雄

1818年に設立されたライン地方にあるボン大学 (Rheinische Friedrich-Wilhelms-Universität) は2つの神学部と法学部、医学部、哲学部、農学部、理学部など7つの学部を擁したドイツ有数の大学である。現在2万7千人の学生が学ぶ大学の本部はそれ自体が歴史的建造物でもある。日本の高校を卒業後、ボン大学東洋言語研究所に留学した経緯、留学に関しての心構えや注意点、ドイツの学生生活や勉強についてなど、自身の体験談を豊富な映像資料とともに紹介しながら講演した。

第3部 バンド Prost 2007 ライブ

運営委員メンバーを中心として今回の分会のために結成されたバンド、Prost 2007によってライブ演奏が行われた。曲目は以下の通りである。また、教員からは工藤康弘先生が参加、ギターの弾き語りが披露された。

歌舞伎町の女王 (ドイツ語)

99 Luftballoons

朝焼け／雨 (アンコール) 中島みゆき

Marmor, Stein und Eisen bricht

Obladi Oblada

ギター：鎌田祐樹
ベース：田村章雄
バイオリン：脇田輝
ドラムス：臼井沙織
ヴォーカル：桐山真緒
ドイツ語訳詞（歌舞伎町の女王）：三好真由佳
ギター弾き語り（朝焼け／雨）：工藤康弘

4. 懇親会

分会行事終了後、レストラン法文坂で懇親会が行われた。懇親会では、武市修先生と準備運営委員会委員長田村君の挨拶の後、運営スタッフの紹介が行われ、講演者のTill Weingärtner氏や馬場氏、ドイツとスイスからの留学生を交えて、学生達が学年の壁を越えて知り合い、情報交換や交流の場を持った。

後記

今回は第一回分会ということで、準備も先例の無い全く手探り状態であったが、運営委員を始め、多くの学生の協力や先生方の強いバックアップを得て盛会のうち分会を終えることができた。特にバンドライブに関しては、スタジオを借りての度重なる練習、スコアの編曲、当日の機材の搬入と調整や音合わせなど、メンバーは大変な労力と時間を費やし、加えて、突発する様々な難題を創意工夫で克服しながら成功させた。分会の後、会場の撤収は深夜にまで及んだが、ここでも多くの学生の協力を得た。また、退職された二宮まや先生や福岡四郎先生が、学生の招待に応じてご出席くださった。今回の関西大学独文学会分会に携わった方々すべてに心より感謝の意を表したい。